

決めていただきたいことから、先に。

7/29 の中長期会議で決まった「澤田=AI/射程②」の中身の案です。
決めることを7つ並べ、その後に理由と、聞かせてほしいことを書いて
います。

2026-08-02 / v1 (たたき台) FOR 加藤さん 期間 2026年8月～2027年1月末

01 - DECISIONS

7件を決めていただければ、8月から動けます。

1～3 は射程②の中身、4～5 は工数が小さく今すぐ試せるもの、6～7 は設定の話です。

#	決めること	推し	ひとつの理由
1	柱3「全社AI着手」の中身を「意思決定の滞留を減らすこと」にする	☐	需要エンジンでリードを増やしても、加藤さんの判断待ちが増えるだけになる恐れがあるため
2	PM の仕組みは新しく作らない (pm/ に「判断待ちの検知」だけ足す)	☐	既に配信も回収も動いているため。別物を作ると正本が2つになる
3	需要エンジンは最初 1商品群 × 1地域 × 1買い手像に絞る	☐	反応がゼロの時に、商品・地域・文面のどれが悪いか特定できるようにするため
4	資料作成を澤田の道具で試す	☐	加藤さんが不得意と書かれていた領域。工数が一番小さく効果が見える
5	ニュースの自動収集を試す (入口だけ。Wiki へ入れる判断は人が押す)	☐	越境ラボの材料と insights/ の更新が「気力」でなく「仕組み」になる
6	澤田の GitHub 権限を Read に落とす	☐	main が無保護なので、事故で壊せる状態を仕組みで塞ぎたい

7 丁寧さんを GitHub に追加する



現在 collaborator に入っておらず、会社の知識ベースを参照できない

02 - PILLAR 3

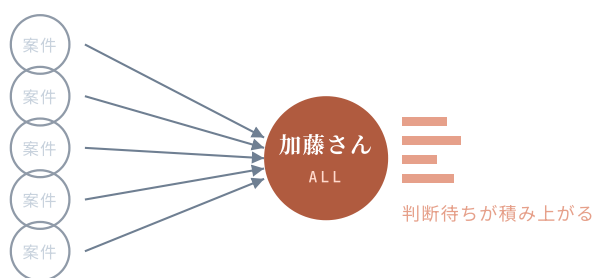
制約はリードの数ではなく、判断が1人に集まっていることです。

だから柱3では「リードを増やす仕組み」ではなく「判断待ちを減らす仕組み」を作りたいです。

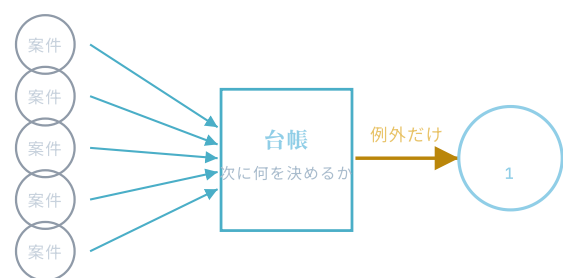
会議記録と月次報告を読んで、そう考えました。

観察	中身
PM が1人に集中	加藤さんが全プロジェクトの PM を担当。専門業務も「PO+PM の2人組」で、加藤さん・佐瀬さんが3本すべての PO に入る
1案件で月36時間	ミツフジ営業代行の実績。26件問い合わせ→商談5件、パートナー経由の実アポ0件SOURCE / 2026年1月度 業務報告書
だから	同型が増えるほど判断が積み上がる。作るものは「リードを増やす装置」ではなく「判断待ちを減らす装置」にしたい

NOW



WITH LEDGER



全案件を見る状態から、例外だけが上がる状態へ

測る指標を1つ足したい ——

加藤さんの判断・承認が48時間以上滞留した件数。

モート作りも需要エンジンも広報も、最後は「進める・止める・誰に渡す」の判断を通ります。ここが詰まると全部詰まります。減らせたかが数字で見えるようにしたい。

作るもの3つ（作るのは仕組みで、判断ではありません）

作るもの	加藤さんにとって何が変わるか
A 案件の採算・意思決定の台帳 GMV／実際の取り分／直接費／人時／回収予定 ／次に何を決めるか／停止条件を1案件1行	全案件を見なくてよくなる。例外だけが上がってくる
B 証拠パッケージ 実績名・役割・数字・顧客コメント・再発注・ 責任分界を出典つきで公開できる形に	越境ラボ・サイト・営業資料・AI検索が同じ証拠から生成される。作り直しがなくなる
C AI 成果物の検収の型 「事実・推定・要確認」を分けて出す	レビューが「全部読む」から「印のついた所を見る」に変わる

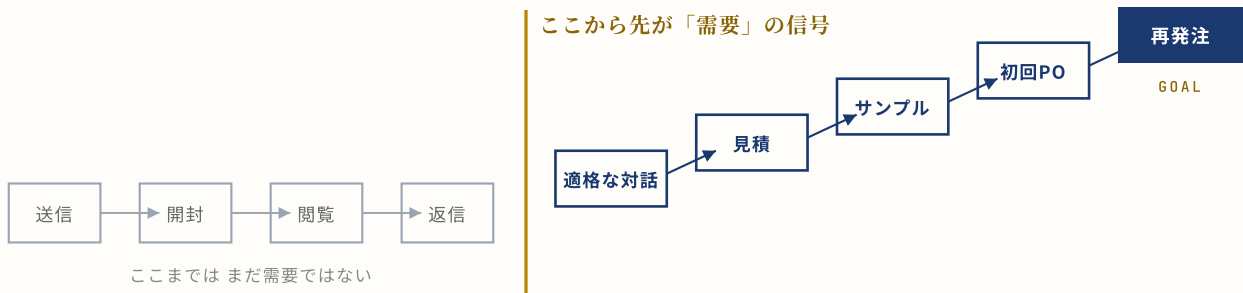
Bは松岡さんの広報の目的（信頼性を補う）に直結します。小さい会社であること・資本金が少ないことはコンテンツで消せませんが、「実績が見えない」「名前が知られていない」の2つは改善できます。

03 - PILLAR 1 & 2

需要エンジンは、全世界に撒く前に1レーンで通します。

反応がゼロだった時に「商品・地域・文面のどれが悪かったか」を特定できる状態にしておきたいからです。

到達点は会議で決まったものをそのまま使います——POが単独で1サイクル（リスト作成→送信→反応の読み取り）を回せる状態。澤田は設計・構築・改善に集中し、定常運用はPOと分担します。



成功の線は「適格な対話3件、または見積・サンプル要求1件」

項目	案（私案・動かして構いません）	理由
期間	1か月	Wiki の決定事項どおり
送信対象	50社程度（1地域・1商品群）	反応率が読めない段階で母数を増やすと、失敗の原因が分からなくなる
データ品質	出典100%・欠損／重複／更新日を検査	誤った企業情報で送ると信頼を落とす。ここは妥協しません
成功の線	適格な対話3件、または見積・サンプル要求1件	「返信が来た」では次の判断ができない
中止の線	反応ゼロなら、システムを増やさず商品・地域・文面のどれか1つだけ変える	増築が一番コストが高い
前提	対象国の送信ルール（GDPR・CASL 等）の確認済みであること	Wiki の保留欄にある項目。ここは澤田が担当します

「絞る」と「絞らない」の使い分け：Wiki の決定事項「カテゴリも地域も絞らない（バイアス排除）」は掲載する商品については維持します。絞りたいのは**最初の検証範囲**だけです。1レーンで信号が出たら次へ広げる、という「後出しジャンケン」の考え方そのままです。
送信そのものは濱風側で行います。澤田は設計と分析までです。

柱2「需要地図の定着」は会議の方針をそのまま

測るのは**判断への使用実績件数**。更新回数では測らない——「作れば達成できてしまう地図」を防ぐ良い指標だと思います。提案は1つだけ：**使用実績の記録先を、柱3A の台帳と同じにしたい**。別々にすると、どちらかが必ず放置されます。

数値案：期間内（8月～1月末）に3件。展示会の出展先1件／広告配分1件／商品またはカテゴリの絞り込み1件。

この2つは、承認いただければ今週から試せます。

どちらも工数が小さく、効果がその場で見えます。重いものはこの後です。

① 工数が一番小さい

資料作成

澤田の道具に、濱風の **DESIGN.md** を読ませるだけです。Light Blue / Teal / Navy / Gold、風のスワール、美的方向「ハイブリッド」。ブランドは濱風のもの、作り方の品質は澤田側という分担なので衝突しません。

対象：提案書／会社概要／展示会の掲示物／越境ラボの図解／中長期方針のスライド／顧客向けレポート

お願い：直近で作る予定の資料を1本いただけますか。それで試して、使えるか判断してください。

② 材料の供給を仕組みに

ニュースの自動収集

濱風には /ingest-news があります。入口が人力なので、そこを自動化したいです。

- ☐ 毎朝 自動でニュース収集
貿易・越境EC・各国規制・EC PF
- ☐ 自動で評価
重要度・関連事業・出典の確認
- ☐ 候補として N 件だけ置く
—
- ☐ ★ Wiki へ入れる判断は人が押す
「Wiki 化は人間が明示指示した時のみ」の原則を守ります

05 - PER MEMBER

4人とも必要なものが違うので、同じものは配りません。

能力定義を読むと、得意・不得意・稼働率が3者3様でした。渡すものを人ごとに変えます。

pm/members_capabilities.md を読んで、必要なものが3者3様だと思いました。

誰	渡したいもの
加藤さん	資料作成の手順（1枚）／判断待ちの検知（影モードから）／提案書に反証をかける手順
佐瀬さん	Claude Code で自分の成果物に反証をかける手順（MAX プランを個別にお持ちと伺いました。財務・契約の検算に最も効きます）／案件の採算台帳の見方
松岡さん	X ブックマーク → 分析 → 台帳の自動化（広報の材料集めが仕組みになります）／投稿の下書き自動生成（公開は人）／todo レベルまで分解した手順書／期限リマインダーの自動化
丁寧さん	まず GitHub に追加／翻訳・要約の定型手順だけ（稼働30%なので、時間を返すものに絞ります）

共通のルール：マニュアルを読まなくても使えることを条件にします。長い手順書は作りません。

進める順序

- **S1 / 8月 —— 資料作成を1本試す**
加藤さんが「これでいい」と言う資料が1本出る
- **S2 / 8月 —— 佐瀬さんに敵対レビューを配る**
佐瀬さんが自分で1回、反証をかけられる
- **S3 / 8～9月 —— ニュース自動収集（1領域だけ）**
毎朝 候補が出る。1週間運用して誤検知率を確認
- **S4 / 9月 —— X ブックマーク → 分析を広報へ**
週次で分析文書が1本出る
- **S5 / 10月～ —— 判断待ちの検知を影モードで**
検知が的外れでないことを加藤さんと確認

S1・S2 を先に置く理由：どちらも工数が小さく、効果がその場で見えるからです。**信頼を作ってから重いものに進みたい。**

06 - WHAT WE WON'T BUILD

既にあるものは作り直しません。足すだけにします。

濱風の PM・Wiki・文体 lint は既に動いています。壊さないことを先に約束します。

- **PM の仕組み** — pm/ が既に動いています。足すのは「判断待ちの検知」の1層だけ
- **Wiki の仕組み** — 型も lint も揃っています。壊しません
- **Wiki への自動書き込み** — 「人間が明示指示した時のみ」の原則を守ります
- **文体 lint の置き換え** — stop-ai-slop-jp と ai_tells_lint.py、**濱風の方が進んでいます。**むしろこちらが学ぶ側です
- **MCP を増やす** — 今すぐ使う理由が言えるものだけ
- **記事の量産** — 越境の専門内容は加藤さん・丁寧さんの監修が必須です

07 - HEARING

この10件が埋まれば、設計を確定できます。

逆にここが空いたままだと、作ったあとで作り直しになります。

A. 数字の前提

01 「流通総額の15%」は、売上・粗利・営業利益のどれを指しますか

案件ごとの採算を測る式が決まりません。成果報酬の設計にも直結します。

02 予算の版はどちらが現行ですか

7/03 の資料は「年間2,500万＋予備900万」、7/29 の会議は「年間約1,000万を全振り」。需要エンジンと展示会の設計規模が変わります。

03 需要マトリクスを見て毎週配分を判断するのは誰ですか

Wiki に書かれた成功基準（「需要マトリクスを根拠に配分判断を実際に1件以上行う」）の実行者です。

B. 案件の実務

04 カタログの予算・時期・実装の担い手

7/29 に「購買導線は作る」と決まったので、カタログでなく EC サイトになります。閲覧の計測部分だけで 8〜15人日、本体と決済導線は別工数です。

05 YUGUO のソーシングDB の登録要件と、CCEE の掲載枠上限

カタログ側の「最小の次の一手」として残っています。

C. 情報と権限の境界

06 顧客機密の境界はどこまでですか

価格・与信・交渉情報のどこまでが機密か。
澤田の環境に何を置けるか／置けないか
が決まります。

07 丁寧さんの Claude Code はどうなっていますか

加藤さん・佐瀬さん・松岡さんは MAX プランを個別にお持ちと伺いました。
1アカウント共用は解消済み
という理解で合っていますか。丁寧さんの分だけ確認させてください。

08 顧客の情報を AI にどこまで入れてよいですか

価格・与信・交渉情報の線引きです。Google Workspace はメンバー分課金と伺ったので、Gemini / NotebookLM 側のデータ保護も併せて確認したいです。

09 X の有料プランをお持ちですか

X の検索を従量課金なしで使えます。

10 回答カードを Wiki のどのカテゴリに置きますか

CLAUDE.md

が「作業前に

wiki_system/wiki/

を必ず参照」を最優先ルールにしているので、

リポジトリ直下に置くと Claude が読みに行きません

。

gardener_generated: false

にすれば

/sync-notion

に上書きされない、で合っていますか。

/lint-wiki

に新しい型を通すには何が要りますか。

AGREED 2026-08-02

情報の取り扱いが合意済みです。

濱風と澤田の間では、業務に必要な情報を自由に保存・参照してよいという裁量をいただきました。**守るのは1点、外部へ勝手に出さないこと。**

澤田側の運用ルールとして、こう置きます：

- ・ 濱風の情報を含む文書は**澤田の環境内でのみ保持**する（第三者への提供・共有はしない）
- ・ **外部AI への相談は業務の一部として行う**（設計レビュー・敵対レビュー）。ただし発信素材化はしない
- ・ 記事・SNS・登壇など**外に出す時は必ず匿名化し、事前に確認を取る**
- ・ 濱風から「これは出さないで」と言われたものは、その時点で退避する

08 - CAPACITY & PROMISES

稼働量は決めず、属人化しない約束を先に置きます。

何にどれだけかかるか双方わからない段階で数字を置くと、少なすぎれば足りず、多すぎれば無駄になります。

項目	内容
稼働量	現時点では決めません。業務に入ってから実績で決めるか、成果物ベース（マイルストーン単位）で

応答

平日日中の即応はできません（本業があるため）

リズム

週1・30～60分の定例を固定曜日で。それ以外は非同期

配分

時間でなく優先順で——① 柱3A 台帳 → ② 柱3B 証拠 → ③ 柱1 需要エンジン
→ ④ 柱3C 検収・引継ぎ・学習

引き受けない範囲（濱風さん側のリスクになるため、先に線を引かせてください）

- 貿易・規制・価格の最終判断、商談のクロージング
- 全 PR・全成果物の最終承認
- 唯一のエンジニア／24時間の障害対応
- 社内 IT（アカウント・権限・リポジトリ）の管理者
- 資料作成の常設係／Wiki への手動転記係／日次の進捗督促

「澤田がいないと回らない」を作らない4つの約束

- ☐ 正本はすべて濱風のリポジトリに置く（澤田の PC に正本を置かない）
- ☐ 手順は「読めばわかる」形にする（「澤田に聞けばわかる」で止めない）
- ☐ 作るものには必ず濱風側の担当を1人つける（その方が説明できる状態をゴールに）
- ☐ 3か月に1回、澤田抜きで1周回す試験をする（回らなければ澤田の設計ミスとして直す）

会議で決まった柱1の到達点「PO が単独で1サイクル回せる状態」と同じ考え方です。

09 - NEXT

次回までに、双方が持ち寄るものです。

加藤さんからは可否と回答、澤田からは台帳の項目案と需要エンジンの実装計画を出します。

誰

いつまで

何を

加藤さん	次回まで	決めていただきたいこと 7件の可否／ヒアリング 10件
加藤さん	次回まで	資料作成を試すための素材1本
澤田	次回まで	柱3A 台帳の項目案
澤田	次回まで	需要エンジン1レーンの実装計画（技術構成・ツール選定・工程）
澤田	次回まで	報酬の形の案（金額でなく構造）
双方	次回	契約書面、GitHub 権限の変更、週次定例の開始

契約について：継続的な業務委託の場合、発注側に**取引条件を書面で明示する義務**があります（フリーランス・事業者間取引適正化等法、2024年11月1日施行）。澤田を守るためというより、**濱風商事側の法令遵守のため**にも先に形にしておきたいです。

報酬の支払期日は受け取った日から60日以内、継続的な業務委託の中途解除は事前予告、6か月以上の委託は育児・介護等への配慮 ―― が主な義務です。

金額は今日決めなくて構いません。「どのくらい頼みたいか」の感覚（月の想定時間・対象案件）をいただければ、澤田から形の案を出します。